

巻頭言

「COVID-19による2020年度学会事業への影響」

日本分類学会会長 栗原考次

2019年11月末から流行している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者数は世界全体では1億人を超え、日本においては2021年を迎えCOVID-19は終息どころか勢いが増しており、37万人を超える状況です。（2021年1月29日現在）COVID-19の感染拡大は、保健・衛生のみならず、経済、航空業界、気象、教育、スポーツなど各方面に多大な影響を及ぼし、働き方の新しいスタイルや日常生活を営む上での新しい生活様式への変貌を余儀なくされています。

日本分類学会の事業も、多大な影響を受け、2020年度は本学会の3大事業である（1）国内外組織との研究交流、（2）機関誌の発行、（3）学術的会合、については十分な活動はできませんでした。2020年度の事業の総括は2021年度総会において事業報告として詳細に行いたいと思いますが、ここでは現時点での対応についてご説明申し上げます。

（1）国内外組織との研究交流

本学会が関連する2020年の国際学会は、ほとんどの開催が延期になりました。ECDA 2020 (European Conference on Data Analysis)は、2020年9月にナポリ（イタリア）で開催予定でしたが、2022年9月に延期になりました。ECDA 2021については、2021年7月7-9日にロッテルダム（オランダ）でDSSV (Data Science, Statistics & visualisation)と同時開催を予定していましたが、オンライン開催になりました。IFCS2021 (International Federation of Classification Society)は、2021年8月にポルト（ポルトガル）で開催予定でしたが、2022年7月17-23日に延期になりました。第8回日独分類シンポジウムについては、2020年9月に北海道大学での開催の準備を進めてまいりましたが、延期になりました。日程については今のところ未定です。国内の研究交流としては、統計関連6学会からなる統計関連学会連合の大会を2020年9月8-12日に主催団体としてオンライン開催いたしました。

<目次>

・巻頭言「COVID-19による2020年度学会事業への影響」	1
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告	
大会開催報告	2
シンポジウム開催報告	3
シンポジウム開催案内	5
・学会賞・フェローについて	
日本分類学会 学会賞およびフェローについて	5
日本分類学会 2019年度 学会賞	5
日本分類学会 2019年度 フェロー授与選考理由について	8
日本分類学会 2019年度 学会賞	8
日本分類学会 2020年度 フェロー授与選考理由について	10
・学会議事録等	
2020年度総会議事録	10
評議員会議事録	11
幹事会議事録	20
・事務局から	22

（2）機関誌の発行

和文誌「データ分析の理論と応用」は、2020年8月に第9巻第1号を予定通り発刊しました。欧文誌では、ADAC (Advances in Data Analysis and Classification)は、2020年12月にVolume 14, issue 4, JoC (Journal of Classification)は2020年10月にVolume 37, issue 3, また、JJSD (Japanese Journal of Statistics and Data Science)は2020年12月にVolume 3, issue 2をほぼ定時に発刊しています。

（3）学術的会合など

大会及びシンポジウムについては、大幅に延期になりました。大会については、当初6月に東京理科大学で開催する予定でしたが、約半年遅れの11月7-8日に同志社大学においてハイブリッド形式で行いました。また、大会中に行っていた総会については、統計関連学会連合大会中にオンラインで開催しました。

シンポジウムについては、従来 11 月頃開催していましたが、大会を 11 月に開催したため開催を遅らせ、2021 年 3 月 21 日に島根においてハイブリッド形式で開催予定です。その他の活動は、会報、ウェブページ、メールニュース及び Facebook 等を利用した広報活動、学会賞やフェローの選考・表彰についてはこれまで通り行っています。

こうした事業の基本的方針は、より魅力的な学会にするために会員への寄与を中心に考える、すなわち、(1) 研究成果の発表の場の提供、(2) 良い研究成果への表彰、(3) 最新の教育・研究に関する情報の提供です。国際関係ではほとんどの学会延期になりましたが、国内の学会については、新型コロナウイルス感染症防止対策を十分した上で、極力ハイブリッド形式で開催する方向で考えました。オンライン形式は参加が容易で参加者が増えるというメリットはありますが、講演終了後の休憩時間などに研究内容の詳細についての議論や種々の情報収集や情報共有に問題があるとの指摘もあります。同志社大学での 11 月大会は、素晴らしい感染症防止対策の下にハイブリッド形式で開催していただき、本当に感謝しております。シンポジウムについては、時期的にも開催が難しい状況がありました。3 月 21 日という年度末に開催する予定ですが、前述の研究成果の発表の場の提供、良い研究成果への表彰を実現するための判断です。会員の皆様には、このような状況をご理解の上、これまで通り本学会へのご支援、ご協力をよろしく願います。

大会・シンポジウム・セミナー関連報告

○ 大会開催報告

日本分類学会第 39 回大会開催報告

大会実行委員長 宿久 洋 (同志社大学)

日本分類学会第 39 回大会を 2020 年 11 月 7 日 (土)・8 日 (日) に同志社大学今出川キャンパスで開催いたしました。

2 日間で延べ人数約 40 名に参加いただき、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。また 14 件の一般講演に加え、10 件の学生発表セッションも行われ、大変、有益な大会になったと感じています。

大会実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに、感謝申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション (1)

漫才における台本構成のパターン分析に向けて
藤本慈音 (同志社大学), 河瀬彰宏 (同志社大学)

「桂枝雀による落ちの 4 分類」の妥当性の検証
松山恵 (同志社大学), 河瀬彰宏 (同志社大学)

一般市民のアドバンスケアプランニングの意向に関する 3 地域比較研究 –COVID-19 に関連する質問項目を中心として–

中西絵里香 (聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科), 林邦好 (聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科), 中島信久 (琉球大学病院 地域・国際医療部), 神谷浩平 (山形県立中央病院 緩和医療科), 田上恵太 (東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野), 本成登貴和 (社会医療法人敬愛会中頭病院 乳腺外科・東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座 乳腺・内分泌外科学分野), 鈴木尚樹 (山形大学医学部附属病院 腫瘍内科), 内藤明美 (宮崎市郡医師会病院 緩和ケア科), 森田達也 (聖隷三方原病院 緩和と支持治療科)

The Effectiveness of Maximal Information Coefficient in Real-world Classification Tasks

Chen Yanru (Doshisha University), Zheng Wanwan (Doshisha University), Jin Mingzhe (Doshisha University)

L.v. Beethoven の作曲様式における区分基準の解明
三木大輔 (同志社大学), 河瀬彰宏 (同志社大学)

学生発表セッション (2)

べき正規分布に基づく Pliable Lasso について

越前谷勇典 (同志社大学), 谷岡健資 (同志社大学)

分位点回帰を用いた多項選択モデルについて

松岡航希 (同志社大学大学院文化情報学研究科), 岡部格明 (同志社大学文化情報学部), 土田潤 (東京理科大学工学部)

補償型の説明的認知診断モデルの提案

丹亮人 (東京大学), 伊藤徹郎 (Classi 株式会社), 岡田謙介 (東京大学)

傾向スコアモデルにおける変数の重要度を考慮した Outcome-Adaptive Lasso の構築と実データへの適用

福島龍一（東京理科大学大学院工学研究科経営工学専攻），安藤宗司（東京理科大学工学部情報工学科），土田潤（東京理科大学工学部情報工学科），寒水孝司（東京理科大学工学部情報工学科）

陽性の頻度が稀な診断結果データに対する gold standard な検査法がない場合の感度・特異度推定

稲尾 翼（北海道大学大学院 医学研究院・医学院），岡田 和史（北海道大学大学院 医学研究院・医学院），楊 一馳（北海道大学大学院 医学研究院・医学院），横田 勲（北海道大学大学院 医学研究院・医学院）

企画セッション「医学研究における実践的なデータ分析法」

オーガナイザー：阿部寛康（京都大学）

看護学生の「ほめられた経験」測定尺度の作成

日高優（京都大学大学院医学研究科）

治療効果予測マーカー探索におけるケースオンリー解析の性能評価

上野健太郎（京都大学大学院医学研究科），田中司朗（京都大学大学院医学研究科）

ノンパラメトリックベイズに基づく直交制約付き非負値行列因子分解を用いた遺伝子発現量データ解析事例
阿部寛康（京都大学）

特別講演

オーガナイザー 阿部寛康（京都大学）

医学研究における生存時間解析の実践

魚住 龍史（京都大学大学院医学研究科 医学統計生物情報学）

一般セッション1

企業データの統計的マッチング手法の開発及びその精度改善の取組

高部勲（総務省統計データ利活用センター・統計数理研究所），山下智志（統計数理研究所）

文字起こしデータを用いた話者識別分析

柳輝佳（同志社大学文化情報学研究科），金明哲（同志社大学文化情報学部）

GAMによるストライク判定確率の経年変化を用いた選手分類についての考察

今田一希（東海大学大学院），酒折文武（中央大学），山本義郎（東海大学）

自由回答データに基づく市民環境意識の解析
陳艶艶（福岡工業大学）

一般セッション2

LINE 調査—新型コロナウイルス（COVID-19）—とデータの科学

角田弘子（日本ウェルネススポーツ大学），林文（東洋英和女学院大学）

緩和ケア病棟における転倒リスクの分類

柏木秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科），林邦好（聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科），森雅紀（聖隷三方原病院），大谷弘之（聖マリア病院）

COVID-19 の実効再生産数（Rt）別で見たアンケート結果への影響

矢野岬（聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科），林邦好（聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科）

一般セッション3

非単調欠測の下での一般化推定方程式によるデータ融合手法の開発

岸本和久（岡山大学大学院），山本倫生（岡山大学大学院・理研 AIP）

異質な閾値を考慮した順序カテゴリカル回帰モデルのセミパラメトリック推定法の提案

高岸茉莉子（大阪大学基礎工学研究科），杉本知之（滋賀大学データサイエンス学部）

零過剰かつ過分散なカウントデータに対する非負値行列因子分解における変分推論に基づく基底数選択

阿部寛康（京都大学）

Gini 係数を用いた斜交回帰法について

土田潤（東京理科大学工学部），宿久洋（同志社大学文化情報学部）

○シンポジウム開催報告

2019 年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 富田 誠（横浜市立大学）

2019年度日本分類学会シンポジウムを2019年12月14日(土) - 15日(日)に北九州国際会議場で開催いたしました。2日間で延べ人数約57名に参加いただき、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。また11件の一般講演に加え5件の学生発表セッションも行われ、大変、有益な大会になったと感じています。シンポジウム実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに、感謝申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

12月14日(土)
学生発表セッション (10:10~12:00)
座長：山田実俊 (東海大学)

NMF に基づいた多変量回帰について
加藤秀佳 (同志社大学), 土田潤 (東京理科大学), 宿久洋 (同志社大学)

正方分割表における部分対称と部分非対称からの隔たりを測るベクトル型尺度
桃崎智隆 (東京理科大学), 中川智之 (東京理科大学), 石井 晶 (東京理科大学), 三枝祐輔 (横浜市立大学), 富澤貞男 (東京理科大学)

大規模空間データのためのクラスター検出手法の提案
竹村祐亮, 石岡文生, 栗原考次 (岡山大学)

MIC を用いた次元縮小法の提案
笹野 蓮, 南 弘征, 水田正弘 (北海道大学)

二相二値データに対する分位点回帰
松岡航希 (同志社大学), 土田 潤 (東京理科大学), 宿久洋 (同志社大学)

一般セッション I (13:30~15:00)
座長：足立浩平 (大阪大学)

因子分析の3種の定式化 — 潜在変数・行列分解・独自性制約アプローチ —
足立浩平 (大阪大学)

ファストファッションに関する購買行動における要因の分析
藤原美佳, 羅 明振, 石岡文生, 栗原考次 (岡山大学)

2次元カーネル密度の対を用いた野球における選手評価

今田一希 (東海大学), 酒折文武 (中央大学), 山本義郎 (東海大学)

一般セッション II (15:30-16:30)
座長：富田 誠 (横浜市立大学)

広告コンテンツにおけるブランド混同の可視化
中山厚穂 (首都大学東京)

TDA (Topological Data Analysis) Mapper による構造化・非構造化データの形状認識の可能性
北西由武, 石岡文生, 飯塚誠也, 栗原考次 (岡山大学)

12月15日(日)
一般セッション III (10:10~11:40)
座長：石岡文生 (岡山大学)

異常検出手法を用いた川端康成の代筆問題研究
孫 昊, 金 明哲 (同志社大学)

添付画像の有無によるツイート内容の比較 ~令和元年台風第19号について~
山田実俊, 宇津圭祐, 長 幸平, 内田理 (東海大学)

非負値制約に基づく一般化成分分析法について
谷岡健資 (和歌山県立医科大学), 宿久洋 (同志社大学)

一般セッション IV (13:10~14:40)
座長：土田 潤 (東京理科大学)

治療効果を推定するためのルール・アンサンブル・モデルの開発
下川敏雄 (和歌山県立医科大学)

二重ベキ加法化変換を用いた応答の予測
吉川隆範 (和歌山県立医科大学), 下川敏雄 (和歌山県立医科大学), 越智義道 (大分大学), 後藤昌司 (医学統計研究会)

数量化を伴う Canonical dependency analysis について
土田 潤 (東京理科大学), 宿久洋 (同志社大学)

○シンポジウム開催案内

2020年度日本分類学会シンポジウム開催について
実行委員長 富田 誠 (横浜市立大学)

2020年度 日本分類学会シンポジウムを2021年3月21日(日)に島根県の松江テルサにて開催することになりました。今回は現地とオンラインのハイブリッド方式での開催になります。詳しくは <http://bunrui.jp/sympo/> をご覧ください。

● 場所

松江テルサ

住所：〒690-0003 島根県松江市朝日町478-18

(JR松江駅北口より徒歩1分、出雲空港から約40分、米子空港から約50分)

● スケジュール

発表申込・参加登録受付開始：2021年1月15日(金)

発表申込締切：2021年3月1日(月)

予稿集原稿提出締切：2021年3月10日(水)

早期納入割引適用期限：2021年3月10日(水)

※ 懇親会は今回は行いません

参加費などについて <http://bunrui.jp/sympo/> をご覧ください。シンポジウムについてのお問い合わせは、下記までお願い致します。

2020年度 日本分類学会シンポジウム実行委員会
sympo2020@bunrui.jp

学会賞・フェローについて

○ 日本分類学会 学会賞およびフェローについて
栗原 考次 (岡山大学)

日本分類学会では、学会賞として「貢献賞」「論文賞」「奨励賞」の3つの賞が設けられています。また、2016年度より「分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績のあった方」を授与対象としたフェロー授与制度を設置しています。

○ 日本分類学会 2019年度 学会賞

2019年度の学会賞受賞者として、貢献賞には西里静彦会員、論文賞には荒井清佳会員、奨励賞には岡部格明会員が選ばれ、2019年6月15日に開催された2019年度総会で授賞式が行われました。

日本分類学会貢献賞

西里 静彦 会員 (トロント大学名誉教授)
主な選考理由

西里静彦氏は、双対尺度法の開発や非線形多変量解析において汎用的な手法の研究を展開してこられた質的データ解析研究の第一人者です。また Psychometric Society の会長、Psychometrika の編集長等を歴任され、American Statistical Association のフェローに選ばれる等、国際的に活躍しておられます。2017年には日本分類学会からフェローの称号が授与されています。

同氏は研究を通して、また該博な学問的知識を駆使した指導・助言により、多くの後輩研究者に影響を与えておられます。その「分類に関する研究の発展」への貢献は多大で、同世代の研究者の中では比肩するものはありません。特に近年では、後進への研究指針を示すべく、本学会誌「データ分析の理論と応用」に論文を発表し、また本学会の特別シンポジウムや関連学会で研究発表を行うなど、広範な研究・啓蒙活動をしておられます。

以上のような研究活動の「分類に関する研究の発展」への多大な貢献に対して、貢献賞を授与しました。

日本分類学会論文賞

荒井 清佳 会員 (大学入試センター)
主な選考理由

荒井清佳氏の下記論文について、論文賞を授与しました。

対象論文：荒井清佳・宮埜寿夫

データ分析の理論と応用 第6巻第1号 101-112

「正答選択肢をすべて挙げる形式の問題の採点について」

本論文は、多肢選択式の問題形式のうち、「適切なものをすべて選べ」と問う形式(複数選択式)に着目し、その採点方法について論じたものです。複数選択式は古くから知られている問題形式であり、部分点を与えるための採点方法としてさまざまな方法が提案されているが最適な方法については定まっていません。本論文では、新しい採点方法として、受験者による選択肢の選択を0/1 データが並んだ解答パターンとして捉え、正答/誤答選択肢の並びとの関連の強さや類似度に基づいて部分点を与える2種類の方法を提案しています。さらに、2種類の提案手法及び2種類の従来手法(MTF (multiple true-false) 法, MTF (multiple true-false) 法) の4つの採点方法について、

各採点方法の性質を示し、部分として望ましい性質の観点から比較を行い、それらの特徴を明らかにしています。

本論文では、提案手法の一つである Jaccard 係数が適切であるとしていますが、(著者も述べている通り)採点方法として最適な方法は、試験の目的や方針等によって異なるものです。本論文は、現実的な利用がありながらその特性が広くは知られていない各採点方法の利点や欠点も含めた特徴を示しているため、複数選択式問題を実際に出題する際の検討材料として有益なものとなっています。

日本分類学会奨励賞

岡部 格明 会員 (同志社大学)

主な選考理由

岡部格明氏は、日本分類学会関連の諸会議において、下記2件の国内発表、1件の国際発表をされています。

- (1) "Using multi-label logistic regression to maximize macro F-measure", ECDA2018 (2018年7月6日, Paderborn, Germany)
- (2) "異なるドメイン間の類似性を考慮したクラスタリング法について", 日本分類学会第37回大会 (2018年6月9日, 統計数理研究所)
- (3) "相対密度比を用いた多クラス分類について", 日本分類学会第36回大会 (2017年12月4日, 北海道コンベンションセンター)

このうち、第37回大会での発表については、優秀学生発表賞を受賞されています。その他、分類に関わるデータ分析法について、精力的に研究活動を実施されています。

このような実績を考慮し、分類学を初めとしたデータの科学における今後の活躍に期待して、岡部格明氏に奨励賞を授与しました。

○学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

西里静彦 (トロント大学名誉教授)

本学会への出席も少ない私に、このような光栄ある賞をくださり、恐縮するとともに皆様のご厚意を心から感謝しております。分類学会との関係といえば、博士論文(1966)で Minimum entropy clustering を提唱したこと、CSNA (北米分類学会)の理事を暫く務めたこと、ドイツ分類学会 (GfKI)、IFCS の学会などで時々論文を発表したこと、Springer 出版の GfKI の分類関係シリーズの編集委員を二十年余務めたくらい

です。それにも関わらず、このような光栄ある賞をいただき恐縮しております。むしろ私のほうが分類学会の皆様には限りなくお世話になってきました。一例は昨年フェローの称号をいただいた時の講演をもとに、岡太先生のお取り計らいと吉野先生と馬場先生のご厚意を背景に書いた Nishisato, Beh, Lombardo & Clavel "Modern Quantification Theory: Joint Graphical Display and Alternatives" (Springer Singapore) の原稿が間もなく脱稿です。この場をかりて上記の三人と分類学会の皆様にご挨拶申し上げます。

退職して 20 年、学界は高速度で変化しています。一例は IFCS Tokyo (2017) 開催の時、Awards committee のチェアを依頼され、5 つの賞の論文審査をしましたが、驚いたことは多数の論文の参考文献が極めて最近のものに限られていることでした。昔は、ある方法は誰が提唱したかということが極めて重要で、参考文献には古い文献がのり、参考文献の検索が不十分だと論文が棄却されたものです。第二例は多くの北米のジャーナルで中国人研究者(多くは在米)の論文が急激に増えたことです。水資源で高名な友人は「我々のジャーナルの論文の過半数は中国人の論文だ」といっています。私達も頑張りましょう。第三例は、かつて Editor を務めた Psychometrika の最近の論文の多くが私にはもはや難しく理解出来なくなりました。若い研究者皆様の飛躍的研究が陰にあります。退職 20 年の長さを痛感しています。来年は日本を離れて 60 年、家族は日本語ができません。「日本語が上手ですね」という私への声、何故このようなお世辞が、と訝っている毎日です。そこに今回突然受賞の吉報を受けて生活に一瞬日がさしました。長年にわたる皆様のご厚意に深謝いたします。



西里 静彦

(にしざと しずひこ)

1935年札幌生まれ。北大(心理)卒(学士、修士)、1961年 Fulbright 留学、University of North Carolina (UNC)で PhD。1966年 McGill 大

学就職、1967年から Toronto 大学で助教授、准教授、学部長、教授をへて 2000 年名誉教授として退職。1955年「北大エスペラント研究会」を創立して初代の会長、Psychometric Society の President, Psychometrika の Editor、アメリカ統計学会 Fellow, UNC 心理学同窓会 Distinguished Alumnus, UNC Carolina Living Legend、日本分類学会 Fellow、行動計量学会林賞、出版賞、名誉会員、法人 Toronto

Japanese Family Services 初代会長、オンタリオ州 Volunteer of the Year 賞、トロント道人会初代会長、カナダ国籍。

日本分類学会論文賞を受賞して

荒井 清佳 (大学入試センター)

この度は日本分類学会の論文賞という栄えある賞をいただき、身に余る光栄に存じます。

対象となった論文「正答選択肢をすべて挙げる形式の問題の採点について」は、宮埜寿夫先生(大学入試センター名誉教授・千葉大学名誉教授)と共著の論文であり、特集「テストデータの分析」に掲載していただいたものです。大学入学共通テストのために実施された試行調査では、従来の択一式とは異なる、正答選択肢をすべて挙げる形式の問題が出題されました。このような問題形式は古くからありますが、本論文では、新しい採点方法を提案するとともに、いくつかの採点方法の特徴を明らかにしました。最適な採点方法を示すまでには至らなかったのですが、この問題形式の採点が意外に難しいことを示せたのではないかと考えております。

テストは、テストの得点を通じて受験者を成績別や合格・不合格等に分類します。テストによっては受験者に大きな影響を与えてしまうことがありますので、問題の作成、実施、採点プロセスのすべてが適切に実行される必要があると考えております。この受賞を励みに、今後もより適切なテストの開発に向けた研究活動を続けていければと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

最後に、論文をまとめるにあたって、査読者の方々から有益で建設的なご助言を賜りました。心より感謝申し上げます。



荒井 清佳

(あらい さやか)

東京工業大学社会理工学研究科博士課程修了(2009)。博士(学術)。財団法人日本人試験研究センターを経て、2009年より大学入試センター助教。2018年より同准教授。

日本分類学会奨励賞を受賞して

岡部格明 (同志社大学)

この度は日本分類学会奨励賞という栄誉ある賞をいただき、身に余る思いを感じております。今回、この賞をいただけたのは、日本分類学会にて日頃より大変お世話になっている先生方によるご指導の賜物だと感じております。大変感謝申し上げます。また、指導教員であり、学部時代より長い間お世話になっている宿久洋先生、研究を進める上で数多く議論の機会をいただいた東京理科大学の土田潤先生に感謝申し上げます。

本学会に関連して、日本分類学会および European Conference on Data Analysis (ECDA)それぞれにて計2件の発表をさせていただきました。

ECDA2018では、マルチラベル分類においてしばしば発生するクラス不均衡の問題に対して、macro F-measure を用いて対処するための分類法に関する研究の成果を発表させていただきました。また、日本分類学会第37回大会では、2つのデータセットが異なったドメインから得られている場合を想定し、混合ガウスモデルを用いたクラスタリング法に関する研究を発表させていただきました。

それぞれの学会で発表させていただいた際に貴重なご意見やコメントをくださった先生方にお礼申し上げます。

今回いただいた賞を励みに、より良い研究ができるように研究活動に励んでゆく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



岡部 格明

(おかべ まさあき)

2017年9月同志社大学文化情報学部卒業、2020年3月同志社大学大学院文化情報学研究科博士課程前期課程修了。

○ 日本分類学会 2019 年度 フェロー授与選考理由について

栗原 考次 (岡山大学)

2019 年度のフェロー受賞者として、岩坪 秀一 会員 (大学入試センター名誉教授) にフェローの称号が授与されました。

授与理由

岩坪秀一氏は、数量化Ⅲ類の発展型として 3-way 離散型データを扱う数量化を提案するなど、多変量解析の研究を進められ、データからいかに有意義な知見を引き出すかを重視した研究を重ねて来られました。大学入試センターでの実際の課題についての優れた研究のほか、早稲田大学に移られてからは、学生の指導に尽力してこられました。本学会では運営委員としての会の運営に貢献されています。

同氏のデータ分析の理論と応用に関する分野における貢献は大きいものであり、今後も本学会に貢献していただきたくフェローの称号を授与しました。

○ 日本分類学会 2020 年度 学会賞

2020 年度の学会賞受賞者として、貢献賞には宮原 英夫 会員、奨励賞には阿部寛康 会員が選ばれ、2020 年 9 月 11 日に開催された 2020 年度総会 (オンラインによる開催) で授賞式が行われました。なお、論文賞については該当者がありませんでした。

日本分類学会貢献賞

宮原 英夫 会員 (医療法人社団薬善会つくば国際臨床薬理クリニック理事長)

主な選考理由

宮原英夫氏は、臨床医学や疫学の分野において、数量化やクラスター分析を応用した実証分析を行い、分類学とデータの科学に関わる顕著な業績を挙げてこられました。また、多数の著作を通して医学関連分野での分類学の普及に努められ、分類学のすそ野を広げることに大きく貢献されています。

同氏は日本分類学会の基盤となった「分類の理論と応用に関する研究会」の設立当時の会員であり、設立時から 2 期、幹事として創成期の学会運営に大きく貢献され、その後も会計監事、5 期の運営委員を歴任されるなど学会の運営に貢献されています。分類学の発展と普及への顕著な功績に対して、2017 年に日本分類学会フェローの称号を授与されています。

同氏の研究活動および学会における活動の「分類に関する研究の発展」への貢献は多大であり、貢献賞を授与しました。

日本分類学会奨励賞

阿部 寛康 会員 (京都大学医学部附属病院)

主な選考理由

阿部寛康氏は、非負値行列因子分解の理論と応用をテーマとして幅広い研究を行っており、日本分類学会の学術誌 ADAC に筆頭著者として下記論文を発表されています。同氏の論文は極めて質の高いもので、今後の一般的な応用と、さらに次元を上げた理論に発展する可能性があります。また、同氏は日本分類学会、ECDA 等で優れた研究発表も行われています。

このような実績を考慮し、分類学を初めとしたデータの科学における今後の活躍に期待して、阿部寛康氏に奨励賞を授与しました。

論文

Abe, H., Yadohisa, H. Orthogonal nonnegative matrix tri-factorization based on Tweedie distributions *Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)*, 13(4), 825-853(2019).

口頭発表

(1) "双対尺度法から得られる Super Distance Matrix を用いた MDS に基づく分割表の行対象と列対象の同時プロットについて", 日本分類学会第 36 回大会 (2017 年 12 月 5 日, 札幌コンベンションセンター)

(2) "Zero-Inflated Negative Binomial Matrix Factorization", ECDA2019 (2019 年 3 月 20 日, Bayreuth, Germany)

(3) "質問紙付き買物ウェブサイト閲覧履歴に対する補助変数を用いた零過剰ポアソン NMF の応用", 日本分類学会第 38 回大会 (2019 年 6 月 16 日, 実践女子大学渋谷キャンパス)

○ 学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

宮原英夫 (つくば国際臨床薬理クリニック)

この度、分類学会の貢献賞をいただき、たいへんに感謝している。受賞の理由の一つとして、学会発足時 (1983) とその前後の運営委員として行った活動が挙げられているが、学会設立の大きな目標であった分類研究の国際協力体制の具体化については、貢献できたとは言い難い。学会に対してささやかな貢献ができたとすれば、学会設立前の研究会の時代から、他の統計関連学会では取り上げられることが少なかったテーマを選んで報告を行ってきたことであり、賞の対象としてここに注目して頂いたことは嬉しい。私と学会と

の今日まで続く関係を作ることになった1970年代のクラスタ分析はその1つであるので、これを中心に振り返ってみる。

1970年代は、社会科学や医学におけるデータの統計処理に使われてきたSPSS, SASやBMDPなどの多くの統計パッケージの内容が充実し、利用環境が一段と整った時代である。とはいうもののわが国では、大規模な統計処理は、まだ大学の大型計算機センターを使って行われていたために、そこにプログラムが用意されていないクラスタ分析や数量化Ⅲ類分析は、計算を実施できない状況であった。1972年に、東大の斎藤陽一先生、繁柘算男先生らがTPI(東大人格検査)の作成のために非階層的クラスタ分析を行った時も、日本ロッシュ研究所のコンピュータが使われたようである。1974年に私は、膠原病の症状の有無と臨床検査所見を「1」,「0」で表したデータを使ってクラスタ分析し、その結果を専門医師による重症度分類と比較したいと考えた。村上征勝先生に相談したところ大隅昇先生と矢島敬二先生を紹介してもらった。大隅・矢島両先生は古河陽子先生と一緒に、Wishartが作成したクラスタ分析プログラム「CLUSTAN」を搭載していた日科技連研修所のコンピュータを使って、7種類の階層的クラスタ分析を実施してくれた。結果はウォード法による分類が重症度に基づく医師の分類とよく一致するというもの以上ではなかったが、クラスタ分析の手順を身近な材料を使って紹介することができたと考えている。このような縁で私には、矢島先生、大隅先生、さらには分類学会とのつながりができ、今日まで半世紀近く続いている。今でもデンドログラムを「源氏香」の図柄に似た形に図案化した日本分類学会のロゴを見るたびに、当時のことが思いだされる。



宮原 英夫
(みやはら ひでお)

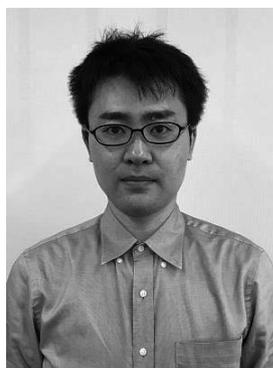
1960年 東京大学医学部 卒業、増山元三郎、高橋暁正、土肥一郎、佐藤登志郎の指導を受けながら、東京大学、北里大学、豊橋創造大学で教育・研究に従事、現在 つくば国際臨床薬理

クリニック理事長。

日本分類学会奨励賞を受賞して

阿部寛康 (京都大学)

この度は奨励賞を頂きまして、誠に光栄に存じます。これまでにご指導・ご鞭撻を頂いた諸先生方、分類学会の先生方、研究について共に議論した同志社大学在籍時の研究室メンバー、そして同時期の指導教官である宿久洋教授にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。受賞のきっかけとなりました論文は同志社大学博士後期課程在籍時に初稿で、アクセプトされたのが京都大学に着任して約2年弱後のことでした。その間、何度も宿久洋教授にはアドバイスと叱咤激励を頂くことができ、なんとか形にすることができたものと思っております。この場をお借りまして、重ねて、宿久洋教授に深謝申し上げたいと存じます。今回受賞理由に挙げて頂きました論文は、次元縮約法のひとつである非負値行列因子分解(NMF)と呼ばれるデータ解析手法の拡張に関するものですが、理論的な根拠付が乏しいと感じており、今後はより理論に注目して研究に励んでいきたいと感じております。このたび頂きました奨励賞は、本学会からの叱咤激励と受け止めて、より一層の努力をして参りたいと存じます。まだまだ未熟者ではありますが、日本分類学会に貢献できるよう、驕ることなく、日々精進して参りたい所存でございます。この度は誠にありがとうございます。



阿部 寛康

(あべ ひろやす)

2010年3月 同志社大学文化情報学部 卒業、2012年3月 同志社大学大学院文化情報学研究科 博士課程(前期課程) 修了、2012年4月 - 2014年1月 企業勤務、2017年3月 同志社大学大学院文化情報学研究科 博士課程(後期課程) 修了、2017年4月 - 2018年5月 京都大学大学院医学研究科 特定助教、2018年6月 - 現在 同 助教。

○ 日本分類学会 2020 年度 フェロー授与選考理由について

栗原 考次 (岡山大学)

2020 年度のフェロー受賞者として、吉野 諒三 会員 (同志社大学) にフェローの称号が授与されました。

授与理由

吉野諒三氏は、統計数理研究所において長期にわたり日本人の国民性調査から発展した国際比較調査の実践と方法論の研究を行い、文化多様体を提唱するなど、調査に基づく国際比較研究において国際的に活躍されています。特に国際比較調査に関する業績は突出しており他の追随を許さないものです。同氏は、日本計画行政会論説賞、日本行動計量学会功績賞 (林知己夫賞)、日本行動計量学会優秀賞 (林知己夫賞) 等を受賞されるなど、他学会でも高い評価を受けておられます。本学会では、運営委員を 7 期、会計監事 2 期、ジャーナル幹事、学会賞選考委員会委員長を歴任し、現在も和文誌編集委員長として分類の理論と応用の発展に大きく貢献されています。

今後も本学会に貢献していただきたく、フェローの称号を授与しました。

学会議事録等

○2020 年度総会議事録

日本分類学会 2020 年度総会 議事録

開催日時 : 2020 年 9 月 11 日(金), 13:00-14:15

会 場 : Zoom によるオンラインでの開催

■議長の選出

議長として、横浜市立大学の 大草孝介氏が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 第 39 回大会について

宿久 渉外幹事(同大会実行委員長)より、第 39 回大会の開催概要について報告された。

2. 2020 年度シンポジウムについて

富田 幹事長より、2020 年度シンポジウムの開催について、第 39 回大会以降の 2020 年度内の開催の可能性について検討している旨、報告された。

3. ECDA2020 について

栗原会長より、2020 年 9 月にイタリア・ナポリで開催予定だった ECDA2020 は中止となった旨、報告された。

4. 第 8 回日独分類シンポジウムについて

栗原会長より、コロナ禍の影響で 9 月に予定していたシンポジウムが開催できなくなった旨、報告された。

5. 各種内規の修正について

石岡 庶務幹事より、運営委員会を評議員会と変更したことを受け、役員選出内規が修正された旨、報告された。

また、論文賞の対象になる論文数が少ない事を受け、対象論文に JoC (IFCS のオフィシャルジャーナル) を加えるよう学会賞内規が修正された旨、報告された。

6. 和文誌について

吉野 委員長の代理で、宿久 和文誌編集委員会副委員長より、和文誌第 9 巻第 1 号が発行された旨、報告された。

7. 学会賞について

馬場 学会賞選考委員会委員長より、2020 年度学会賞の受賞者について報告された。

8. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 2019 年度事業報告・会計報告について

石岡 庶務幹事より、2019 年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田 会計幹事より、2019 年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

本報告は、事業・会計報告とあわせて、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

2. 2019 年度監査報告について

林(文) 監事より、決算報告書の内容について監査を実施した結果、

各事業の収支が適切に処理されている事を確認した旨、報告された。

また、2019 年度に開催された評議員会・幹事会の議事録等を確認し、

学会の業務執行状況が適正である事が認められた旨、報告された。

3. 2020年度事業計画および予算案について
石岡庶務幹事より、2020年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。
小田会計幹事より、2020年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。
以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

4. フェロー候補者について
馬場学会賞選考委員会委員長より、会員からの推薦に基づいて学会賞選考委員会で評議した結果、吉野諒三氏(同志社大学)をフェロー候補者として推薦したい旨の提案があり、全出席者の過半数の賛成で承認された。

5. その他
その他の審議事項なし。

■総会終了後、以下の通り学会賞の表彰式ならびにフェロー称号の授与式を行った。

[貢献賞] 宮原英夫氏(医療法人社団薬善会つくば国際臨床薬理クリニック理事長)

[奨励賞] 阿部寛康氏(京都大学医学部附属病院)

[フェロー称号] 吉野諒三氏(同志社大学)

○評議員会議事録

・2019-20年度第5回評議員会(ネット)

日時：2019年11月12日(火)～22日(金)(メールによる審議)

◆審議事項

1. 新規入会について
1名の正会員、および5名の学生会員の新規入会について、原案の通り承認された。
(評議員20名のうち回答者数18名、未回答者数2名。回答者数18名のうち、賛成者数18名)

・2019-20年度第6回評議員会(ネット)

日時：2020年3月26日(木)～4月3日(金)(メールによる審議)

◆審議事項

1. 会員の入退会について
1名の正会員の入会、および8名の退会について、原案の通り承認された。

(評議員20名のうち回答者数19名、未回答者数1名。回答者数19名のうち、賛成者数19名)

・2019-20年度第7回評議員会

開催日時：2020年7月17日(金)、16:30-18:10

会場：岡山大学 東京オフィス(東京工業大学CIC)5階508ならびにZoomによるオンラインでの並行開催

出席者(敬称略、会長以外は五十音順)：

栗原孝次(会長、岡山大学)、足立浩平*(大阪大学)、石岡文生(岡山大学)、大津起夫*(大学入試センター)、小田牧子(防衛医科大学校)、酒折文武*(中央大学)、佐藤美佳*(筑波大学)、清水信夫*(統計数理研究所)、富田誠(横浜市立大学)、豊田裕貴*(法政大学)、中山厚穂*(東京都立大学)、馬場康維*(統計数理研究所)、林篤裕*(名古屋工業大学)、水田正弘*(北海道大学)、宿久洋(同志社大学)、山本義郎(東海大学)

今泉忠(監事、多摩大学)、林文(監事、東洋英和女学院大学)

(*はZoomによる参加)

委任状提出：

岡太彬訓(立教大学)、狩野裕(大阪大学)、久保田貴文(多摩大学)、竹内光悦(実践女子大学)、山口和範(立教大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数11名(評議員現在数の過半数)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 第38回大会について
石岡庶務幹事より、竹内光悦実行委員長の下、第38回大会を2019年6月15日-16日に実践女子大学渋谷キャンパス(東京都渋谷区)で開催した旨、報告された。
両日で述べ60名の参加者、発表件数は13件、優秀学生発表賞に今田一希氏(東海大学)が選出されたこと等が報告された。

2. 2019年度シンポジウムについて
富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より、2019年度シンポジウムを2019年12月14日-15日に北九州国際会議場(福岡県北九州市)で開催した旨、報告された。

日本分類学会 2019 年度事業報告

2020 年 5 月 1 日

1. 第 38 回大会の開催

第 38 回大会を 2019 年 6 月 15 日(土)～16 日(日)に実践女子大学渋谷キャンパス創立 120 周年記念館(東京都渋谷区)にて開催した(実行委員長:竹内光悦氏(実践女子大学),発表件数 13 件)。優秀学生発表賞に今田一希氏(東海大学)が選出された。

2. 第 38 回総会の開催

第 38 回総会を第 38 回大会開催中の 2019 年 6 月 15 日(土)に実践女子大学渋谷キャンパス創立 120 周年記念館にて開催した。

3. 日本分類学会シンポジウムの開催

日本分類学会シンポジウムを 2019 年 12 月 14 日(土)～15 日(日)に北九州国際会議場(福岡県北九州市)にて開催した(実行委員長:富田 誠氏(横浜市立大学),発表件数 16 件)。優秀学生発表賞に竹村祐亮氏(岡山大学)が選出された。

4. セミナー開催

2019 年度データ分析セミナーを 2019 年 5 月 18 日(土)に開催した。(午前の部:テーマ「R での地理情報の可視化」(講師:久保田貴文氏(多摩大学)),午後の部:テーマ「空間データにおけるホットスポットの検出とその実践」(講師:石岡文生氏(岡山大学)))

5. 評議員会, 幹事会の開催

評議員会は, 第 1 回を 2019 年 3 月 27 日(水)に東京医科歯科大学 湯島キャンパスで, 第 2 回(ネット)を 4 月 7 日(日)～17 日(水)に, 第 3 回を 6 月 15 日(土)に実践女子大学 渋谷キャンパスで, 第 4 回(ネット)を 9 月 17 日(火)～27 日(金)に, 第 5 回(ネット)を 11 月 12 日(火)～22 日(金)に, 第 6 回(ネット)を 3 月 26 日(木)～4 月 3 日(金)に開催し, また, 幹事会は第 1 回を 2019 年 6 月 14 日(金)に岡山大学東京オフィスで開催し, それぞれ下記の事項等について審議した。

- ・会員の入会・退会の承認
- ・学会賞・フェロー候補者
- ・平成 30 年度事業報告・会計報告
- ・2019 年度事業計画案・予算案
- ・幹事会構成メンバーの承認
- ・各種内規の修正
- ・学会事務の業務委託
- ・学生会員入会キャンペーンの実施
- ・統計関連学会連合大会の委員の選出
- ・2020 年度大会・シンポジウムの開催
- ・2020 年度統計関連学会連合大会の企画セッション
- ・2020 年度学会賞選考に関するスケジュール

- ・IFCS-2017・日独分類シンポジウムに対する対応
- ・その他検討の必要な議題

6. 会報、ウェブページ、メールニュースおよびFacebookによる学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に、学会活動の告知および報告を、会報（No.38を2019年11月発行）およびウェブページにて発信を行った。加えて、速報性のある情報についてはメールニュースやFacebookなどを活用し、適宜会員への情報提供を行った。

7. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC およびJJSDの発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第8巻第1号の発行および第9巻第1号の編集を行った。また、ADAC（欧文ジャーナル）およびJJSD（統計関連学会連合の欧文ジャーナル）への発行協力および投稿支援を行った。

8. 学会賞について

2019年度の学会賞として、貢献賞を西里静彦氏（トロント大学名誉教授）、論文賞を荒井清佳氏（大学入試センター）、奨励賞を岡部格明氏（同志社大学）に授与した。

9. フェローについて

フェローの称号を岩坪秀一氏（大学入試センター名誉教授）に授与した。

10. 日本学術会議の活動

日本学術会議の日本学術会議協力学術研究団体として活動を行った。

11. 学会事務の業務委託について

学会事務の業務委託について検討・調整を行い、2020年度から実施する運びとなった。

12. 学生会員入会キャンペーンについて

学生会員の入会キャンペーンを実施した。

13. IFCS2019

2019年8月26日(月)～29日(木)にギリシャのThessalonikiで開催された16th Conference of the International Federation of Classification Societies (IFCS2019)において、日本分類学会としてセッションを企画した。

14. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合の一員として活動を行い、2019年度統計関連学会連合大会の主催団体として同大会プログラム委員会および運営委員会へ委員を選出した。
- (2) 国際分類学会 (IFCS) の一員として活動を行い、分担金の負担を行った。
- (3) IFCS傘下学会への協力を行った。
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った。

				単位:円	
科 目	予算額	決算	増 減	備 考	
I. 収入の部					
1 入会金収入	20,000	16,000	△ 4,000	2,000円×16人(正会員)	
2 会費収入	800,000	955,000	155,000	納入率71%	
正会員	550,000	560,000	10,000	6,000円×112人(納入率:70%)	
シニア会員	12,000	18,000	6,000	3,000円×6人(納入率:85%)	
学生会員	38,000	32,000	△ 6,000	2,000円×16人(納入率:70%)	
賛助会員	150,000	150,000	0	50,000円×3口(納入率:100%)	
前年度以前分	50,000	175,000	125,000		
前受金	0	20,000	20,000		
3 論文誌関係収入	310,000	372,760	62,760		
論文集売上	0	0	0		
予稿集売上	0	0	0		
広告収入	180,000	160,000	△ 20,000	60,000×2社+30,000×2社(Vol.8)	
別刷代金	30,000	18,360	△ 11,640	別刷り(Vol.8)立替分	
論文誌関係雑収入	100,000	194,400	94,400	TeX化料金(Vol.8)、頁超過(Vol.8)立替分	
4 雑収入	350,000	505,913	155,913		
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	0 独立採算	
セミナー参加費	350,000	261,500	△ 88,500	1回分のみ	
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0		
寄付・広告等	0	244,412	244,412	第38回大会寄附	
利子収入	0	1	1	1 銀行口座利子	
その他	0	0	0		
5 繰入金収入	25,000	25,000	0		
積立より繰入	25,000	25,000	0	IFCS年会費(2019、2020年度分)	
A 当期収入合計	1,505,000	1,874,673	369,673		
B 前期繰越収支差額	2,655,457	2,655,457	0		
C 収入合計(A+B)	4,160,457	4,530,130	369,673		
II. 支出の部					
1 論文誌発行業務費	670,000	558,555	111,445		
和文誌	500,000	329,295	170,705	Vol.8、送料含む	
別刷代金	30,000	18,360	11,640		
論文誌関係雑支出	100,000	29,700	70,300	TeX化料金、カラー化料金	
J-Stage登録作業費	40,000	16,500	23,500	5000円(税別)×3件	
その他	0	164,700	△ 164,700	頁超過分	
2 事業費	533,480	329,368	204,112		
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	0 次回大会分を支払い済み	
セミナー運営補助費	100,000	164,022	△ 64,022	講師謝礼、資料印刷、wifi費用等	
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0		
広報費	5,000	0	5,000		
学会賞・フェロー経費	80,000	45,146	34,854	学会賞表彰経費、フェロー認定経費、受賞者の大会参加費	
名簿作成	0	0	0		
選挙経費	0	0	0		
J-Stage学会誌公開費用	168,480	16,200	152,280	vol.7のJ-Stageデータ作成料(vol.1-6は次年度)	
新入会員特典	80,000	4,000	76,000	1名のみ利用	
その他	0	0	0		
3 学会運営会合費	47,000	58,128	△ 11,128		
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	0	45,000		
その他	2,000	58,128	△ 56,128	業務委託準備のため	
4 事務費	325,932	158,334	167,598		
業務委託費	200,432	50,440	149,992	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費	
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000		
事務用品・消耗品費	25,000	45,613	△ 20,613		
ADAC 事務連絡費	2,000	0	2,000		
ウェブ運営管理費	3,500	3,287	213	ドメイン移管費	
会報印刷費	80,000	47,520	32,480	会報 No.38	
印刷費	5,000	11,254	△ 6,254		
その他	0	220	△ 220	立替え払いの振込手数料	
5 通信・郵送料	80,000	83,841	△ 3,841		
会報等送料	50,000	25,460	24,540		
会費請求等連絡通信費	15,000	18,140	△ 3,140	会費請求に関する資料等の送付	
その他	15,000	40,241	△ 25,241	学会賞・フェローなどの書類郵送費等	
6 負担金	75,216	70,374	4,842		
IFCS	55,000	50,158	4,842	IFCS年会費(2019、2020年度分)	
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	2019年分(振込手数料を含む)	
7 積立	50,000	50,000	0		
特別事業のための積立	5,000	5,000	0		
名簿作成のための積立	0	0	0		
選挙経費のための積立	25,000	25,000	0		
IFCS負担金のための積立	0	0	0		
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	新規	
8 予備費	1,000	0	1,000		
D 当期支出合計	1,782,628	1,308,600	474,028		
E 当期収支差額(A-D)	△ 277,628	566,073	△ 843,701		
F 次期繰越収支差額(C-E)	2,377,829	3,221,530	△ 843,701		
G 支出合計(D+F)	4,160,457	4,530,130	△ 369,673		

日本分類学会会則第 10 条に基づき、2019 年 4 月 1 日より2020 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

2020年 5 月 31 日

監事 今泉 忠 印

監事 林 文 印

(実際の決算報告書には自筆の署名と押印あり)

日本分類学会 2020 年度事業計画

2020 年 9 月 11 日

1. 第 39 回大会の開催

第 39 回大会を 2020 年 11 月 7 日(土)～8 日(日)に宿久 洋 氏 (同志社大学) を実行委員長として同志社大学今出川キャンパス (京都府京都市) にて開催する。(現地とオンラインの並行での開催の予定)

2. 第 39 回総会の開催

第 39 回総会を 2020 年度統計関連学会連合大会中に開催する。

3. 2020 年度日本分類学会シンポジウムの開催の検討

2020 年度の日本分類学会シンポジウムの開催および開催方法について検討する。

4. セミナーの開催

2020 年度のデータ分析セミナーの開催および開催方法について検討する。

5. 評議員会, 幹事会の開催

(1) 評議員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

下記事項を検討課題とする。

- ・会員の入会・退会
- ・学会賞・フェロー候補者
- ・2019 年度事業報告・会計報告
- ・2020 年度事業計画案・予算案
- ・大会・シンポジウム
- ・統計関連学会連合への対応
- ・日独分類会議 (JGSC), ECDA など共催する国際会議への対応
- ・他学会大会・シンポジウム等への協賛・後援
- ・その他検討の必要な議題

(2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

下記事項を検討課題とする。

- ・評議員会の議題
- ・広報について
- ・和文誌について
- ・その他検討の必要な議題

6. 会報, ウェブページ, メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を, 会報 (No. 39 を 2020 年度中に発行) およびウェブページにて発信する。加えて, 速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し, 適宜会員への情報提供を行う。

7. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC および JJSD の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に、第9巻第1号を発行しJ-Stageへ登録する。また第10巻第1号の編集を行う。ADAC（欧文ジャーナル）およびJJSD（統計関連学会連合の欧文ジャーナル）への発行協力および投稿支援を行う。

8. 学会賞について

2020年度の学会賞を授与する。2021年度の学会賞の推薦・選考を行う。

9. フェローについて

フェローの候補者を検討し、ふさわしい会員にフェローの称号を授与する。

10. 日本学術会議の活動

日本学術会議の日本学術会議協力学術研究団体として活動を行う。

11. 学生会員入会キャンペーンについて

学生会員数の増加に向けて、学生会員の入会キャンペーンを実施する。

12. 次期役員選挙について

次期役員選挙を行う。

13. JGSC2020

8th Japanese - German Symposium on Classification (JGSC2020; 第8回日独分類会議)の開催についてドイツ分類学会と検討する。

14. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合の一員として活動を行い、2020年度統計関連学会連合大会を主催団体として開催し、同大会プログラム委員会および運営委員会を選出する。
- (2) 国際分類学会（IFCS）の一員として活動を行う。
- (3) IFCS傘下学会への協力をを行う。
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行う。

2020年度予算
2020年4月1日から2021年3月31日まで

日本分類学会

単位:円

科目	予算額	前年度予算	増減	備考
I 収入の部				
1 入会金収入	20,000	20,000	0	2,000円×10人として算出
2 会費収入	780,000	800,000	△ 20,000	
正会員	560,000	550,000	10,000	5,000円×(161人×0.7≒112人)として算出
シニア会員	18,000	12,000	6,000	3,000円×(7人×0.85≒6人)として算出
学生会員	52,000	38,000	14,000	2,000円×(23人×0.7+10人≒26人)として算出
賛助会員	100,000	150,000	△ 50,000	50,000円×2口として算出
前年度以前分	50,000	50,000	0	2019年度収入は175,000円
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	290,000	310,000	△ 20,000	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	160,000	180,000	△ 20,000	論文誌 Vol. 9 の広告収入、実績より算出
別刷代金	30,000	30,000	0	別刷り(Vol.9)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	100,000	0	TeX化料金、カラー印刷代金(Vol.9)立替分
4 雑収入	311,828	350,000	△ 38,172	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	200,000	350,000	△ 150,000	データ分析セミナーのみ、法政IM共催セミナーは開催未定
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	111,828	0	111,828	2019年度の大会の一部、シンポジウムからの寄付
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	選挙費積立より繰入
A 当期収入合計	1,426,828	1,505,000	△ 78,172	
B 前期繰越収支差額	3,221,530	2,655,457	566,073	
C 収入合計(A+B)	4,648,358	4,160,457	487,901	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	670,000	0	
和文誌	500,000	500,000	0	Vol.9.送料を含む。
別刷代金	30,000	30,000	0	Vol.9.
論文誌関係雑支出	100,000	100,000	0	Vol.9.
J-Stage登録作業費	40,000	40,000	0	Vol.9. 1論文あたり5000円(税抜)
その他	0	0	0	
2 事業費	463,600	533,480	69,880	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	大会分は前年度支払い済み、シンポジウム分と次回大会分
セミナー運営補助費	50,000	100,000	50,000	講師謝礼、交通費・資料作成費等
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	5,000	0	学会パンフレット作成費
学会賞・フェロー経費	80,000	80,000	0	表彰状・フェロー認定経費、大会参加費、優秀学生発表賞費
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	50,000	0	△ 50,000	今年度は選挙実施
J-Stage学会誌公開費用	138,600	168,480	29,880	過去のバックナンバー公開作業費(昨年度の残り)
新入会員特典	40,000	80,000	40,000	新規、学生会員10人分の新入会員の大会、シンポジウム参加費
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	47,000	0	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	45,000	0	実績より算出
その他	2,000	2,000	0	実績より算出
4 事務費	243,940	325,932	81,992	
業務委託費	150,440	200,432	49,992	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	25,000	25,000	0	実績より算出
ADAC 事務連絡費	0	2,000	2,000	今年度から削除
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	ドメイン管理費、実績より算出
会報印刷費	50,000	80,000	30,000	会報 No.39. 1号分のみ計上
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	60,000	80,000	20,000	
会報等送料	25,000	50,000	25,000	会報 No.39. 1号分のみ計上
会費請求等連絡通信費	20,000	15,000	△ 5,000	会費請求に関する資料等の送付。郵送費値上げのため増増
その他	15,000	15,000	0	大会(総会)案内、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	20,220	75,216	54,996	
IFCS	0	55,000	55,000	2019年度に支払い済み
統計関連学会連合	20,220	20,216	△ 4	2020年分、振込手数料を含む
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	0	25,000	25,000	選挙にかかる実費から算出
IFCS負担金のための積立	25,000	0	△ 25,000	IFCS 負担金支払いのための積立
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	日独分類シンポジウム開催時のための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,555,760	1,782,628	226,868	
E 当期収支差額(A-D)	△ 128,932	△ 277,628	△ 148,696	
F 次期繰越収支差額(C-D)	3,092,598	2,377,829	△ 714,769	
G 支出合計(D+F)	4,648,358	4,160,457	△ 487,901	

両日で述べ41名の参加者、発表件数は16件、優秀学生発表賞に竹村祐亮氏(岡山大学)が選出されたこと等が報告された。

3. 2019年度データ分析セミナーについて

山本庶務幹事より、2019年度データ分析セミナーについて、「地理情報データの可視化」をテーマに5月18日に東海大学で開催した旨、報告された。(講師：久保田貴文氏(多摩大学)、石岡文生氏(岡山大学))
また、2020年度3月のセミナー開催を検討していたが、コロナ禍の影響等により開催出来なかった旨、報告された。

4. 第5,6,7回日独分類シンポジウムおよびPost-Proceedings 出版について

今泉氏(同編集担当)より、発行が遅れている日独分類学会 Post-proceedings について、現状で投稿されている論文数では出版に際しページ数が不足する事から、ドイツ側に1~2件の投稿を依頼する、日本側で過去3回(2016年9月・レーゲンスブルク、2017年8月・東京、2018年7月・ドルトムント)の日独分類学会講演者に投稿を依頼する、過去3回の発表タイトルや発表リストを掲載する、などの対応を早急に行う旨、説明があった。
また、出版に向けてのスケジュールは、投稿依頼・原稿受付を2020年8月、査読を9月末、Springerとの契約と原稿送付を10月末、出版を2021年4月とする旨、説明があった。

5. 2020年度統計関連学会連合大会について

山本庶務幹事(同大会実行委員長)より、2020年9月8日-12日に富山県富山市で開催される2020年度統計関連学会連合大会について、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底するため、現地での参加に加え、オンラインでも参加・講演できる環境を提供する旨、説明があった。

6. ECDA2020 について

栗原会長より、2020年9月にイタリア・ナポリで開催予定だったECDA2020は中止となった旨、報告された。
中山渉外(国際学会活動)幹事より、ナポリでの大会は2022年に延期になった旨、また、ECDA2021を2021年7月5日-9日にオランダ・ロッテルダムにて、DSSVとの同時開催が予定されている旨、報告された。

7. 和文誌について

吉野委員長の代理で、宿久和文誌編集委員会副委員長より、8月中旬に和文誌第9巻第1号が発行される旨、また、本号から新たに研究ノートのカテゴリに属する論文が掲載される旨、報告された。

8. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について

石岡庶務幹事より、2020年3月26日以降の入会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、1名の正会員の入会、および2名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。

2. 2019年度事業報告・会計報告について

石岡庶務幹事より、2019年度事業報告について、資料に基づき説明された。
小田会計幹事より、2019年度会計報告について、資料に基づき説明された。
審議の結果、本報告は事業・会計報告とあわせて原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

3. 2019年度監査報告について

林(文)監事より、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われている旨、報告された。
(※)本評議員会の後、監事により2019年度に開催された評議員会・幹事会の議事録についても追加で確認がなされ、学会の業務執行状況が適正である事が認められた。

4. 第39回総会について

栗原会長より、第39回総会を、統計関連学会連合大会中の9月11日の13時より、同大会の企画セッションの枠組みの中で、現地およびオンラインによる並行開催で実施する旨、説明された。
富田幹事長より、分類学会の会員が総会のみに参加する場合に、連合大会の参加費を支払うような事態が発生しないよう対応する旨、説明があった。
審議の結果、原案通り承認された。

5. 第39回大会について

宿久渉外幹事(同大会実行委員長)より、第39回大会を2020年11月7日-8日に、同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市)で開催する旨、加えて、本大

会はオンラインによる参加・講演発表も併用する旨、説明された。
審議の結果、原案通り承認された。

6. 2020年度シンポジウムについて

富田幹事長より、第39回大会以降の、2020年度内での開催の可能性について検討する旨、説明された。
審議の結果、原案通り承認された。

7. 第8回日独分類シンポジウムについて

栗原会長より、コロナ禍の影響で9月に予定していたシンポジウムが開催できなくなった旨、説明がなされた。

水田渉外(国際学会活動)幹事(同シンポジウム担当)より、2020年度または2021年度の開催の可能性について検討する旨、説明された。
審議の結果、原案通り承認された。

8. 2020年度事業計画・予算案について

石岡庶務幹事より、2020年度事業計画案について、資料に基づき説明された。

小田会計幹事より、2020年度予算案について、資料に基づき説明された。

審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

9. 学会賞について

馬場学会賞選考委員会委員長より、2020年度学会賞について下記の選考結果が報告された。

【貢献賞】宮原英夫 会員 (医療法人社団薬善会つくば国際臨床薬理クリニック 理事長)

【論文賞】該当者なし

【奨励賞】阿部寛康 会員 (京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構 助教)

審議の結果、原案の通り承認された。

10. フェロー候補者について

馬場学会賞選考委員会委員長より、2020年度フェロー称号について、吉野諒三 会員 (同志社大学文化情報学部 特別客員教授) が選考された旨、説明があり、審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

11. 役員選出内規の改訂について

石岡庶務幹事より、運営委員会を評議員会と変更したことを受け、役員選出内規の改定案が提案され、審議の結果、原案の通り承認された。

役員選出内規：

第1条：運営委員会を開催する → 評議員会を開催する

第2条：運営委員会は、会長候補者1名を選考し、
⇒ 評議員会は、会長候補者1名を選考し、

第9条：選挙管理委員は、運営委員会で選出し、
⇒ 選挙管理委員は、評議員会で選出し、

付則：施行する。

⇒ 施行し、規定の制定改廃は、評議員会で行う。

12. 役員選挙のスケジュールについて

石岡庶務幹事より、役員選挙のスケジュールについて、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

13. その他

馬場学会賞選考委員会委員長より、論文賞の対象になる論文数が少ない事を受け、対象論文にJoC (IFCSのオフィシャルジャーナル) を加える事が提案され、審議の結果、原案の通り承認された。
なお、論文賞の対象論文は「データ分析の理論と応用」、「ADAC」を優先する事を確認した。

学会賞内規：

第4条2(1)：

(現行)

データの科学としての分類やそのデータ分析に関して、本学会誌(「データ分析の理論と応用」、「ADAC (Advances in Data Analysis and Classification)」または「JJSD (Japanese Journal of Statistics and Data Science)」)に発表された論文のうちから、特に優秀と認められるものを選定する。

⇒ (改定案)

データの科学としての分類やそのデータ分析に関して、本学会誌(「データ分析の理論と応用」、「ADAC (Advances in Data Analysis and Classification)」、「JoC (Journal of Classification)」または「JJSD (Japanese Journal of Statistics and Data Science)」)に発表された論文のうちから、特に優秀と認められるものを選定する。

・2019-20 年度第 8 回評議員会(ネット)

日時：2020 年 10 月 5 日(月)～10 月 12 日(月) (メールによる審議)

◆審議事項

1. 入会について

2 名の正会員の入会について、原案の通り承認された。

2. 選挙管理委員の選出について

次の 2 名の選挙管理委員の就任について、原案の通り承認された。

- ・阿部貴行 氏 (横浜市立大学データサイエンス学部)
- ・山田実俊 氏 (東海大学情報技術センター)

(評議員 20 名のうち回答者数 19 名、未回答者数 1 名。回答者数 19 名のうち、賛成者数 19 名)

・2019-20 年度第 9 回評議員会(ネット)

日時：2020 年 10 月 27 日(月)～11 月 2 日(月) (メールによる審議)

◆報告事項

1. 入会について

長崎県で開催される 2021 年度連合大会における本学会選出委員について報告された。

- ・プログラム委員：林 邦好 氏 (聖路加国際大学)
- ・運営委員：宇野光平 氏 (名古屋大学)

◆審議事項

1. 入会について

1 名の正会員および 3 名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。

(評議員 20 名のうち回答者数 20 名。回答者数 20 名のうち、賛成者数 20 名)

○幹事会議事録

・2019-20 年度第 2 回幹事会

開催日時：2020 年 7 月 17 日(金)、15:00-16:00

会 場：岡山大学 東京オフィス (東京工業大学 CIC) 5 階 508 ならびに Zoom によるオンラインでの並行開催

出席者(敬称略、会長・幹事長・監事以外は五十音順)：

栗原考次(会長、岡山大学)、富田 誠(幹事長、横浜市立大学)、今泉 忠(監事、多摩大学)、石岡文生(岡山大学)、大津起夫*(大学入試センター)、小田牧子(防衛医科大学校)、酒折文武*(中央大学)、豊田裕貴*(法政大学)、中山厚徳*(東京都立大学)、林 邦好(聖路加国際大学)、水田正弘*(北海道大学)、山本義郎(東海大学)、吉野諒三*(同志社大学)

(* は Zoom による参加)

(同日に開催された評議員会と重複する議題については内容を一部簡略化)

◆報告事項

1. 第 38 回大会について

石岡庶務幹事より、竹内光悦実行委員長の下、第 38 回大会を 2019 年 6 月 15 日-16 日に実践女子大学渋谷キャンパス (東京都渋谷区) で開催した旨、報告された。

2. 2019 年度シンポジウムについて

富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より、2019 年度シンポジウムを 2019 年 12 月 14 日-15 日に北九州国際会議場 (福岡県北九州市) で開催した旨、報告された。

3. 2019 年度データ分析セミナーについて

山本庶務幹事より、2019 年度データ分析セミナーについて、「地理情報データの可視化」をテーマに 5 月 18 日に東海大学で開催した旨、報告された。(講師：久保田貴文氏(多摩大学)、石岡文生氏(岡山大学))

4. 第 5,6,7 回日独分類シンポジウムおよび Post-Proceedings 出版について

今泉氏(同編集担当)より、発行が遅れている日独分類学会 Post-proceedings 出版の進捗状況について報告された。

5. 2020 年度統計関連学会連合大会について

山本庶務幹事(同大会実行委員長)より、2020 年 9 月 8 日-12 日に富山県富山市で開催される 2020 年度統計関連学会連合大会について、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するため、現地での参加に加え、オンラインでも参加・講演できる環境を提供する旨、説明があった。

6. ECDA2020 について

栗原会長より、2020 年 9 月にイタリア・ナポリで開催予定だった ECDA2020 は中止となった旨

報告された。

7. 和文誌について

吉野ジャーナル幹事(和文誌編集委員会委員長)より、8月1日に和文誌第9巻第1号(原著論文1件、研究ノート3件)が発行予定である旨、報告された。

8. 会員種別の変更について

石岡庶務幹事より、2020年3月26日以降の会員種別変更について、資料に基づき報告された。

9. その他

栗原会長より、7月16日にIFCS2021のProgram committeeが開催され、ポルトガル・ポルトで開催される2021年度大会について、進捗状況について報告された。

中山渉外(国際学会活動)幹事より、ECDA2021を2021年7月5日-9日にオランダ・ロッテルダムにて、DSSVとの同時開催が予定されている旨、報告された。

◆審議事項

1. 2019年度事業報告・会計報告について

石岡庶務幹事より、2019年度事業報告について、資料に基づき説明された。

小田会計幹事より、2019年度会計報告について、資料に基づき説明された。

審議の結果、本報告は事業・会計報告とあわせて原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

2. 2019年度監査報告について

石岡庶務幹事より、2019年度の業務執行状況および会計の監査について、コロナ禍の影響により、対面では行わず、メール・郵送等の方法により行った旨、説明された。

今泉監事より、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われている旨、報告された。

(※)本幹事会の後、監事により2019年度に開催された評議員会・幹事会の議事録についても追加で確認がなされ、学会の業務執行状況が適正である事が認められた。

3. 第39回総会について

栗原会長より、第39回総会を、統計関連学会連合大会中の9月11日の13時より、同大会の企画セッションの枠組みの中で、現地およびオンラインによる並行開催で実施する旨、説明された。

審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

4. 第39回大会について

栗原会長より、コロナ禍の影響により、当初予定していた東京での開催が困難となった旨、説明された。また、関係者で検討を重ねた結果、宿久洋 実行委員長の下、2020年11月7日-8日に、同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市)にて、オンラインによる参加・講演発表を併用するかたちでの開催の方向で調整している旨、説明された。

審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

5. 2020年度シンポジウムについて

冨田幹事長より、第39回大会以降の、2020年度内での開催の可能性について検討する旨、説明された。審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

6. 第8回日独分類シンポジウムについて

栗原会長より、コロナ禍の影響で9月に予定していたシンポジウムが延期になった旨、説明された。

水田渉外(国際学会活動)幹事(同シンポジウム担当)より、2020年度または2021年度の開催の可能性について検討する旨、説明された。

審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

7. 2020年度事業計画・予算案について

石岡庶務幹事より、2020年度事業計画案について、資料に基づき説明された。

小田会計幹事より、2020年度予算案について、資料に基づき説明された。

豊田企画幹事より、2020年度のデータ分析セミナー(法政IM共催セミナー)については、コロナ禍の影響により開催が見込めないため予算を計上していないが、オンライン開催等も含め、実施可能になれば実施する旨、補足説明された。

審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

8. 学会賞について

石岡庶務幹事より、2020年度学会賞の選考結果について報告された。

9. フェロー候補者について

石岡庶務幹事より、2020年度フェロー称号授与の推薦者について報告された。

10. 役員選挙のスケジュールについて

石岡庶務幹事より、役員選挙のスケジュールについて、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

11. その他

その他の審議事項なし。

事務局から

● 学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society)およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group)と共同で、2007年よりSpringer社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキョウ)支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>)のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■ 編集後記

今号に寄稿頂いた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な学会・研究会が中止・延期になったり、オンラインでの開催になりました。本学会でも大会は11月に対面とオンラインのハイブリッドの形で開催となりました。会報に関しても掲載記事の関係もあり発行間隔があいてしまいました。ここにお詫び申し上げます。

会報では学会活動報告の他、各種賞の受賞者の言葉なども盛り込み、発行していく予定です。また、メールニュースやFacebook等でも情報発信しております。メールニュースでは大会・セミナー開催に関する速報性の高いお知らせを、Facebookでは大会・セミナーの雰囲気や周辺情報等を写真を交えて発信しております。Facebookは非会員でも見られます。共有がまだの方は是非共有して頂き、非会員の方々へもご紹介頂ければ幸いです。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事 横山暁(青山学院大学)

広報委員 阿部寛康(京都大学)、谷岡健資(同志社大学)、山田実俊(東海大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>